


令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島市立荒井小学校 】

1 実践テーマ	IV・V
2 実施対象者 (学年・人数)	1年(28人) 2年(33人) 3年(26人) 4年(20人) 5年(28人) 6年(30人) 計165人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(生活・総合・体育) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名(スマイル東北プロジェクト「ヒマワリのたねをまき、荒井地区で咲かせよう」) ② その他()
4 目標 (ねらい)	スポーツに対する興味・関心を高め、スポーツを楽しむ心を育成するとともに、目標に向かって自己実現していく取組を意識できるようにする。また、多様な文化を受け入れ、互いに理解し合える共生社会について学ぶ機会とする。
5 取組内容	◇ 活動I「オリンピックから学ぼう」(5・6年)  北京オリンピック陸上4×400mリレー代表である佐藤真有さんを講師に、オリンピックと自分との関わりから目標をもつことの大切さや福島で出会った仲間との友情などについて講話をしていただいた。世界で活躍されたトップアスリートに直接お話を聞いたことによって、夢というものが目標をもつことでより現実に近づいていくことを理解できた。 その後、陸上の実技指導もしていただき、スタートダッシュの仕方や走るフォームについてより具体的に指導していただいた。体育の授業や市小学校陸上大会に向けての練習で、走るフォームに注意しながら自分の目標に向かって一生懸命取り組んでいる

姿が見られた。

◇ 活動Ⅱ「ホスト国ベトナムを身近に感じよう」(1・2年)



福島市はベトナムのホストタウンである。そのベトナムを身近に感じるための活動を行った。事前の学習として「ベトナムってどんな国」から学習し、日本や福島市との結びつきや習慣、食べ物、観光などについて学習した。その後福島市立吉井田小学校栄養教諭渡部ちか子さんの協力を得て、食文化に触れるためのベトナムのデザート「チャー」作りに挑戦した。「甘くておいしい」「色がとてもきれい」「日本の〇〇に似た味」などの感想も聞かれ、ベトナムを身近に感じる機会となった。

◇ 活動Ⅲ「パラリンピックを身近に感じよう」

～ボッチャ体験～

(3・4年)



福島県立大笹生支援学校教諭國分章夫さんを講師に、ボッチャ体験教室を実施した。最初にボッチャがパラリンピックの競技種目であり、日本も「火の玉ジャパン」として出場することをお話しされた。その後、障がい者のスポーツとして障がいの状態に応じてクラスが分かれていることやルールについて説明が行われた。実際の体験では体育館に6面コートを作り、できるだけ全員が競技体験できるようにした。ボールの感触や投げるコツを教えていただくとともに、チームで協力することの大切さを学びながら、ボッチャの魅力に思う存分浸っていた。

◇ 活動Ⅳ「ヒマワリのたねをまき、荒井地区で咲かせよう」

～スマイル東北プロジェクトとの連携～

あづまの里「荒井」づくり地域協議会との連携で、本校児童がヒマワリの種を5月下旬に蒔き、ある程度の大きさになった苗をオリンピック・パラリンピック会場となるあづま球場周辺の道路脇に植え、花いっぱいの荒井地区で選手をお迎えしようという取組であった。

残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実際に会場周辺道路脇での植栽は中止となったが、あづまの里「荒井」づくり地域協議会からヒマワリの種が全校生に寄贈され、児童は自分の家の庭などにこの種を蒔き、来年度に向けての予行練習も兼ねて、おもてなしの心で花いっぱいの荒井地区を作り上げることを通して機運醸成を図ることができた。

<p>6 主な成果</p>	<p>オリンピック・パラリンピック教育事業推進校として取り組ませていただいたことで、児童及び職員のオリンピック・パラリンピックに対する意識が高まった。また、野球・ソフトボール会場がすぐ近くにあるあづま球場であることも、地域の団体等と連携した活動を通して意識することができる大きな要因となっていた。</p> <p>トップアスリートを招いての講話・実技指導は、大きな目標を目指すための考え方やモチベーションの在り方を知るよい機会となった。実技指導では実際の動きを見たり、適切なアドバイスを受けることで、憧れの気持ちや運動のコツを理解し、体育における授業などにも役立てることができた。また、パラリンピック競技種目であるボッチャ体験を通して、障がいのある人たちの立場や同じ人として自分たちにできることなども理解することができ、思いやりの心の醸成にもつながった。さらに、食文化を通じた他国や異文化の理解は、世界の様々な人々に目を向ける機会となった。</p> <p>今年度の活動を通して、オリンピック・パラリンピックをより身近に感じることができ、自分たちの学校生活においても改善を図りながら生活を送ることができるよい機会となった。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の発達段階を考えながら、全校生で取り組む活動と低・中・高学年別で取り組む活動を分けて実践した。 ・ オリンピック・パラリンピックの野球・ソフトボール会場であるあづま球場がすぐ近くにあることから、地域全体で機運を盛り上げるために、地域団体との連携を図った活動を取り入れた。 ・ 福島との関わりを大切にして講師の方や内容を選定した。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリンピック・パラリンピック教育と教科、領域の学習内容の関連を図るための教育課程への位置づけや指導計画の作成 ・ オリンピック・パラリンピック教育を進めるための校内組織と地域との連携の在り方 ・ 外部講師招聘についてのコーディネート
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技会場隣接学校としての地理的利点を生かした地域と連携した活動の推進 ・ 今年度からの継続した取組と広がりのある取組 ・ 開催した業績や育んだ精神を今後に生かす取組